



岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは

「お米ショックは値上がりから値下がりに・・・」

今回は、お米の値上りショックがあったように、同じように値下がりショックが再度くるのです。

それは「米が余っているのに、価格が下がらない」ことから始まっているのです。

連日マスコミ報道でお米が取り上げられない日はありません。

スーパーの平均価格の最高値更新など耳にします。

米価格は新米がでてきたら、価格も落ち着くなどと言われていましたが・・・

知っていますか？

産地側の原料米市場の玄米売買では価格は大きく値下がりしています。

それなのにスーパーなどの店頭価格が下がらない、その疑問にお答えします。

採れ秋に農家への仮渡金が1俵で4万、5万という話が飛び交いました。

米卸は高値で買いに入り、どんどんと吊り上がって行きました。

いま米卸は高値で買ったお米の在庫を抱えているのです。

消費者も米騒動で従来よりも多く買ったので家庭在庫が増えて、11月はお米売場で売れない状況が続いているです。

通常の市場では当たり前のことですが、保守的米卸は米が回転していないので差損を出したく無いのが原因なのです。

高く買った在庫があるので米卸は口を添えているかのように、値下がりしている事をごまかし続けているのです。一年前の米価が上がった時点では法外な利益を上げたはずでしたか・・・

米卸は差損を少なくする為に備蓄米・輸入米のブレンド米を作り出します。

余談ですが、米袋メーカーは複数原料米アメリカ産などのブレンド袋印刷で忙しくなっています。

生産者はけして4万、5万といった高値を望んでいるのではありません。

今年になり離農者は25%という記事も農業新聞に出ていました。

前農水大臣が行った小泉米の随意契約で道をつけた全農・米卸を通さない流通は画期的だったのです。賛否もありますが、小泉米は売る人、食べる人に重きを置いた政策だったのです。

売る人が直接市場から、米生産者から購入できる仕組みをこの機会に試行してみませんか。今求められているのは、米流通のブラックボックスを解放する事なのです。そうしないといつまでも政治や農業利権に、小売りを含めた消費者が振り回されることになるのです。